

ホクレン営農支援情報

(2019年1月号)

● RTK-GNSS（インターネット方式）の基地局からの距離別の精度確認

《長沼研究農場 営農技術課》

トラクターのガイダンスシステムや自動操舵補助装置で利用される RTK-GNSS（インターネット方式）の位置情報の精度は、基地局から 20 km以内であれば、一般的に誤差 2~3 cmであると言われています。

営農技術課では、基地局から 20 km以上離れた場合の精度を検証するために、最長 110 kmまで離れた場合での精度を 10 km間隔で確認。位置情報の精度は、地形や周辺環境の影響を受けるため、基地局からの距離だけで決まるものではありませんが、今回の検証結果を 1 つの事例として、現在データをまとめています。今後、2月の「ホクレン農業総合研究所情報交流会」などで情報提供する予定です。

《検証方法》

GPS受信機を車に搭載して移動した。



● かぼちゃの貯蔵調査中！ 《長沼研究農場 園芸作物開発課》

園芸作物開発課では、食味が良く貯蔵性の高いかぼちゃの品種開発を目標とし、品種比較試験を行っています。その中で貯蔵性の評価として、9月の収穫後の貯蔵期間中における

品種ごとの腐敗発生率や重量減耗などを毎月調査しています（調査は主に 12 月までですが、一部は 1 月以降も継続）。また、貯蔵中に変化する食味の評価も行っています。

視察受け入れも行っていますので、ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。

(Tel : 0123-88-1990)



●繁殖技術研修会を実施しました 《訓子府実証農場 畜産技術課》

平成 30 年 10 月 30 日にオホーツク家畜人工授精師協会の主催による繁殖技術講習会を当農場にて開催いたしました。講師はジェネティクス北海道高橋芳幸顧問をお招きし、「生体を用いた直腸検査と超音波検査」と「生殖器解剖と直腸検査・受精技術の確認」の実習を行い、「牛の人工授精に関する繁殖整理と基礎技術」について講義を行いました。当日はオホーツク NOSAI 等からの参加者が受講され、通常業務での疑問点など多くの質問がありました。当農場において、今後も継続して研修を開催していきたいと考えています。



直腸検査の様子



生殖器解剖の様子

● 枝肉共励会に訓子府実証農場の和牛肥育牛を出陳 《訓子府実証農場 畜産技術課》

平成 30 年 12 月 1 日に平成 30 年度北海道枝肉共励会が北海道畜産公社道東事業所十勝工場にて開催され、訓子府実証農場より黒毛和牛去勢牛 1 頭を出荷致しました。

訓子府実証農場において、肥育用配合飼料「黒一徹」を給与して肥育飼養した出陳牛は、入賞は逃したものの BMS11、きめや締まり、光沢は 5 と良い成績でした。今後も安定した枝肉重量や枝肉成績の結果を出せるように、飼養技術の実証に努めていきたいと思ひます。



共励会出陳牛 (No.6142)

父	母の父	母の祖父	月齢	枝肉重量	格付	BMS
美津照重	芳乃国	平茂晴	27.7	517 kg	A5	11

● 空知管内 JA 営農担当者会議で情報共有 《岩見沢支所 営農支援室》

岩見沢支所では、今年度より管内 JA 営農担当者に向けた情報発信および多様化する生産者ニーズの共有化を目的として JA 営農担当者会議を企画し、平成 30 年 11 月 27 日に第 2 回目の会議を行いました。

今回の議題は、情報提供として①秋まき小麦「きたほなみ」の安定生産に向けて②人材確保・定着に向けた JA とホクレンの取り組みについてでした。JA などからの参加者は 16 人で、会議終了後のアンケートにおいても高い評価を頂きました。



●ホクレン農業試験研究・技術普及懇話会を実施 《営農支援推進課》

営農支援推進課では、平成 30 年 11 月 22 日に「ホクレン農業試験研究・技術普及懇話会」を札幌市内で開催しました。これは、ホクレンと北海道の研究機関・普及部門が情報を交換することにより効率的な研究と生産技術の普及を図るもので、毎年実施しています。

今年は、「今年の作物生育経過並びにスマート農業の取り組み」をテーマとし、北海道農政部、道総研、ホクレンなどから 48 人が出席しました。特に注目の高いスマート農業に関して、ホクレンからは「低コスト RTK システム」の取り組み（詳細はアグリレポート 15 号参照）や、完全自律飛行ドローンなどについて話題提供を行いました。

各機関が課題を共有できたことで、今後はより効率的にスマート農業の推進を行うことができそうです。



●コントラクターオペレーター研修会に全道から 19 人が参加 《営農支援推進課》

全道で農作業の外部委託ニーズが増加傾向にある一方、作業に熟練したコントラクターオペレーターは不足しています。そのため営農支援推進課では、平成 30 年 11 月 28 日に日本ニューホランド株式会社苫小牧デポで、北海道コントラクター組織連絡協議会と連携し「コントラクターオペレーター研修会」を開催しました。

研修会では、牧草収穫作業用新機種に関する作業の流れについて、実際に使用している

オペレーターから体験談を紹介したり、メーカーから実機を使ったメンテナンスのための解説などを行いました。また、ホクレン農業機械課からは安全な農作業のための講義を行いました。参加した受講者からは「非常に役に立った」「分かりやすかった」との声が多く聞かれました。



● 「農福連携」に関する JA・ホクレン研修会を実施 《営農支援推進課》

平成 30 年 12 月 11 日にホクレンビルで「農福連携」に関する JA・ホクレン研修会を開催し、JA やホクレン、北海道の職員など約 60 名が参加しました。この研修会は、農業現場の担い手や労働力の確保が厳しい現状のなかで、地域の農業生産やコミュニティ維持の実践策のひとつである「農福連携」についての知見を広めることなどが目的です。

研修会では、酪農学園大学の義平教授より「農福連携」の意味や活動に取り組む際の農業者の心得などの説明があったほか、実際に障がい者を雇用している生産者や JA から事例が報告されました。また、グループディスカッションでは「農福連携」を進めるための



課題や「できることは何か」などについて議論。学んだこと地元で生かそうと、受講者の皆さんの真剣な表情が印象的でした。

●担い手向け研修会（水稲）を開催します 《営農支援推進課》

ホクレンでは、担い手生産者を対象に、「水稲」をテーマとした研修会を下記のとおりで開催します。研修の目的は、①基礎知識の習得、②担い手同士のつながりの強化です。昨年の同研修会では全受講者から「非常に役に立った」または「ある程度役に立った」と評価いただきました。参加を希望される方は、ホクレン各支所の営農支援室まで。

【開催日時】 平成 31 年 2 月 18 日（月） 11:00～19 日（火） 14:50

※1泊2日の合宿研修

【受講場所】 ホクレン研修センター（札幌市東区北 22 条東 2 丁目）

【受講対象】 就農後、概ね 5 年以内の水稲生産者

【研修内容】 水稲栽培の基礎、水田土壌の仕組み、生産現場における良質米生産の取り組み事例、水田の病害虫・雑草防除、米の食味の違い、北海道米の販売情勢と今後の戦略、水稲栽培の低コスト・省力化技術、ういず One の紹介、総合討論（意見交換） 等

【申込方法】 農協を通じて、ホクレン各支所の営農支援室へ。



昨年の研修会の様子

●「ホクレン農業総合研究所情報交流会」を開催します 《研究企画課》

ホクレンは、平成 31 年 2 月 19 日（火）にホクレンビルにて「ホクレン農業総合研究所情報交流会」を開催します。この交流会では、農業総合研究所で得られた試験研究成果のうち、現場で活用可能な 7 つのテーマについてご紹介します。研修や勉強会など、情報収集・情報交換の場としてご活用いただければ幸いです。

ご参加にあたっては、事前のお申し込みをお願いしています。参加ご希望の方は、お電話にてお問い合わせください。

【開催日時】 平成 31 年 2 月 19 日（火）午後 1 時から午後 5 時

【開催場所】 ホクレン本所 1 階会議室

（札幌市中央区北 4 条西 1 丁目 3 番地 ホクレンビル）

【演題】 「RTK-GNSS の距離別精度実証試験について」、「秋播き小麦におけるリモートセンシングから可変施肥までの体系比較について」、「大玉トマトの 6 月定植における養液栽培システム「ういず One」を用いた栽培実証試験について」、「ミニトマトの品種特性について」、「北海道内で栽培可能な新たな園芸作物について（ズッキーニ、芽キャベツ他）」、「馬鈴しょでん粉原料品種「コナヒメ」について」、「残留農薬検査業務について」

【お問合せ】 011-742-5433（農業総合研究所 研究企画課 担当：田中）

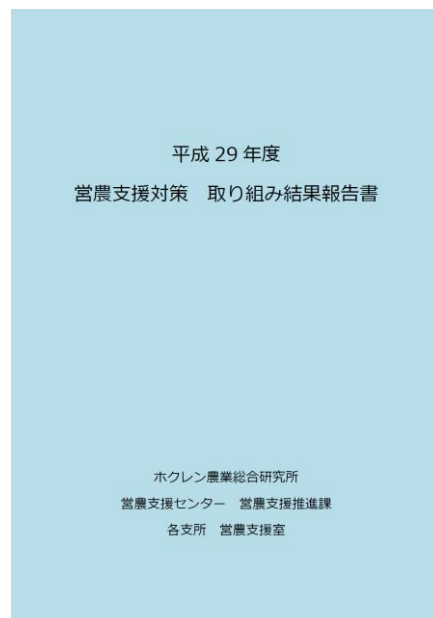


昨年の交流会の様子

●平成 29 年度 営農支援対策取り組み結果報告書の発刊 《営農支援推進課》

ホクレン各支所営農支援室では、平成 29 年度に「生産者所得の向上」・「生産基盤の強化」の実現に向け、①課題解決に向けて農協（生産者組織など含む）が実施する試験や展示に対する技術支援、②先進技術や優良事例などの各種情報の収集や発信による普及活動、③農協および本会職員の各種スキル強化を目的とした人材育成に向けた研修、など全 81 課題に取り組みました。

これらのうちから優良事例として 12 課題をピックアップし、製本化して関係機関（農協・普及センター・試験場等）へ配布します。本冊子は 1 月中旬までにお手元に届くよう取り進めています。内容をご一読いただき、今後の地域課題解決に向けた参考としていただければ幸いです。



報告書の表紙（イメージ）

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp